

巻頭言

地域看護のソーシャルイノベーション
——地域社会の包容力を高める看護の挑戦——

大森 純子

東北大学大学院医学系研究科
(第27回学術集会長)

日本地域看護学会誌, 26(3):3, 2023

来年度の日本地域看護学会第27回学術集会は東北地方初開催となります。2024年6月29日(土)・30(日)の2日間、メインテーマ『地域看護のソーシャルイノベーション——地域社会の包容力を高める看護の挑戦——』を掲げ、杜の都仙台で行います(8月31日までオンデマンド開催)。東北地方は超高齢少子社会の先進地域です。日本の総人口は2020年に1億2,615万人でしたが、50年後には8,700万人になると予測され、この人口減少の問題は静かなる有事といわれています。ここ東北では、急速に進む人口減少による過疎化や自治組織の終活など人々の生活の質に関わる課題に住民とともに向き合い、新しい考え方や発想、新たな価値を創出する諸活動が展開されています。

イノベーションには、物事の新しい見方やとらえ方、新たな視点の入れ方や思考の切り口を指す新機軸と、新しいアイデアや技術から社会的意義や価値を生み出す活動の2つの意味があります。現在、企業、大学、研究機関、行政による産学官の連携を通じてさまざまな分野で最先端技術をあらゆる社会生活に取り入れ、新たな価値を創造し、だれもが快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることができる人間中心の未来社会を実現しようとする日本の未来社会 Society5.0 構想が動き出しています。国家として、IoTですべての人とモノがつながり、人工知能やロボットなどの技術を用い、年齢や障害などによる労働や行動の制限、少子高齢化や過疎化の地域の課題の克服に挑む社会の変革“ソーシャルイノベーション”を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望をもてる社会、世代を超えて互いに尊重しあえる社会、1人ひとりが快適に活躍できる社会をつくらうとしています。

このような未来社会を目指す動きのなかで、地域看護はどのような新機軸をもち、どのような社会的意義や新たな価値を生み出す活動を展開できるでしょうか。国家資格を有する看護職は、最先端技術をだれも取り残さない包容力の高い地域社会づくりに利活用し、自身が所属する地域コミュニティにおいて人々の生活の質とそれを支えるケアシステムを保障する責任があります。コミュニティは人類の文明の進歩とともに、血縁を中心とした原始家族的コミュニティ、狩猟や農耕を中心とした生活共同体コミュニティ、産業活動を中心とした都市コミュニティ、時間と空間を超えて常に影響し合うグローバルコミュニティへと変化してきました。これから、最先端技術を駆使した人間中心の包摂的コミュニティの時代が本当に訪れるのか、人々の健康の保持増進、生活の質の向上、地域でケアすることを専門とする私たち地域看護のソーシャルイノベーションにかかっていると思います。

第27回学術集会では、地域看護の新機軸を共有し、未来志向で意見交換する。学際的交流を通じて参加者間の学び合いがそれぞれの立場で実践、教育、研究を推進する熱量となり、個人の気づきや閃きが連鎖して地域看護学の新たな価値創造の原動力になることを祈念します。